

第1回 立川競輪経営戦略検討委員会 議事要旨		
	令和6年9月17日（火） 開始 14時 00分 終了 16時 00分	場所 立川競輪場 大会議室
委員	委員長…神崎 恵子 立川市公営競技事業部長 副委員長…井上 隆一 立川市産業文化スポーツ部長 委員………太田 勇 立川市総合政策部シティプロモーション推進担当課長 伊東 佐知子 立川市行政管理部施設課長 徳丸 祐豪 立川市財務部財政課長 木村 貴史（公財）JKA 競輪振興業務部次長 冨澤 聡（公社）全国競輪施行者協議会企画担当部長 森谷 武雄 立川競輪場周辺対策協議会副会長	
参考	事務局：福家 賢三 立川市公営競技事業部事業課長 高城 毅 立川市公営競技事業部事業課庶務係長 中村 潤司 立川市公営競技事業部事業課場外係長 二橋 寛典 立川市公営競技事業部事業課施設係長 アドバイザー：(株)ケイドリームス	
議題	2 委員長あいさつ 3 立川競輪の現状と課題について (1) 中期基本方針について (2) 立川競輪事業の将来像について（2020年版）の取組状況について (3) 立川競輪場施設改修基本計画について (4) 立川競輪の現状と課題について (5) アンケート結果について 4 今後の委員会の進め方について 5 その他	
	1 開会	検討委員会の性質上公開とし、傍聴を許可することとした。また、議事録についてもホームページ等で公開することとした。 立川競輪経営戦略検討委員会設置要綱第3条2項に基づき、公営競技事業部長が委員長として議事進行 事務局より配布資料の確認 ・ 検討委員会次第 ・ 資料1 立川競輪経営戦略検討委員会設置要綱 ・ 資料2 2024年度中期基本方針アクションプラン第1四半期報告

	・資料 3-1 立川競輪事業の将来像について(2020 年版) ・資料 3-2 立川競輪事業の将来像について(2020 年版)取組状況 ・資料 4-1 立川競輪場施設改修基本計画 ・資料 4-2 立川競輪場施設改修基本計画補足資料 ・資料 5 令和 5 年度の立川競輪の決算について ・資料 6-1 民間ポータルサイト会員間ケート結果 ・資料 6-2 立川競輪経営戦略委員会参考資料 ・資料 7 委員名簿 委員の自己紹介 事務局の自己紹介 アドバイザー（株式会社ケイドリームス）の紹介
委員長	2 委員長あいさつ ・現在立川競輪では、令和 2 年 2 月に策定した「立川競輪事業の将来像について（2020 年版）」に提言されている様々な施策を講じながら競輪運営を行い、収益を確保している。この「将来像 2020 年版」の実施年度が令和 2 年度から 6 年度までとなっているため、令和 7 年度から 11 年度までの 5 年間を実施年度として、新たな収益確保に向けた戦略を策定するものである。委員の皆様には、忌憚の無いご意見をいただき、立川競輪経営戦略を策定したいと考えている。
事務局	3 立川競輪の現状と課題について (1) 中期基本方針について ・中期基本方針は、競輪業界の最高意思決定機関である競輪最高会議が令和 3 年 3 月に策定したもので、期間は令和 3 年度から令和 7 年度までの 5 年間とし、各種施策を実行し、5 年間で社会還元の最大化と競輪の裾野の拡大を図り競輪の安定的な成長を図るものとしている。 ・令和 7 年度の売上目標は、業界全体で 1 兆 2,500 億円。 ・現行の中期基本方針は、平成 3 年度以降、車券売上が減少に伴い、従来縮小の政策を図っていたが、コロナ禍におけるデジタル社会の進展に伴い、インターネットの売上が伸びたこともあって拡大路線に方針転換をしたもの。 ・今年度の第 1 四半期でのトピックスとしては、競輪業界全体の政策が主だが、サテライトでのファミリー層向けイベントや松山競輪での地元住民向けのバンク開放などは立川競輪単体としても参考になる。
A 委員	・令和 5 年度の業界の売上は 1 兆 1,892 億円で、令和 6 年についても 1 月から 8 月までの期間で 112%伸びており、目標を達成できる見込み。

B 委員	・ 効果的な事例については、J K A が取りまとめて各施行者に展開していきたい。
A 委員	・ 競輪場ごとの特色はあるのか。立川の特色があるならば、そこに力を入れることもできるのではないか。
C 委員	・ 地域条件によって全く異なる。郊外型の場合は、広い敷地でいろいろなイベントができる。
A 委員	・ 立川はグランプリの発祥地ということで、いわゆる立川ブランドが地域住民や競輪界で浸透しており、大きな開催をしているというイメージが強い ため、その点を生かすことができるのではないか。
C 委員	・ 売上の増加に合わせて選手の育成も進めていくという認識か。
A 委員	・ 育成は継続的に行っている。
C 委員	・ 選手数は計画的に一定数を基に新陳代謝をしており、大きく増減はしない が、安定的・継続的に開催できるように維持したいと考えている。
A 委員	・ オリンピックで爆発的に知名度が上がることも含めて進めるのか。
	・ 適宜募集を行っているが、各競輪場やサテライトには地域における広報の 役割を担ってもらい協力しながら進めていきたい。
	(2) 立川競輪事業の将来像について(2020 年版)の取組状況について
事務局	資料 3-2 「立川競輪事業の将来像について(2020 年版)取組状況」について 説明
D 委員	・ 「立川競輪事業の将来像について(2020 年版)」を策定した当時は、競輪の 売上が減少しており、いかに経費を削減して売上の減少を抑制していくか という消極的なつくりになっている。
	・ しかし、令和 2 年度以降のコロナ禍とその後のインターネットの進展によ って売上は増加した一方で、発売チャネルがネット主体に変わっており、 当初想定された動きになっていない。
事務局	・ 取組事項の「市民に愛される競輪場」に関して、これからも可能な範囲で 地元住民に施設を開放されたい。また、そのことを発信されたい。
	・ また、防災について、災害時のスペースや貯蔵などに関する競輪場として の考え方を積極的に発信できるといい。
事務局	・ 市民に愛される競輪場としては、平成 28 年度に第 4 スタンドを取り壊して 市民の丘を造成し、地域の方に自由に利用していただいている。
	・ 立川競輪は、同じく都内にある京王閣競輪と開催日が重ならないように調 整しているため、他の競輪場に比べて年間の開催日数が少ないこともあ り、非開催日には地域の方に利用していただき、有効活用したい。
	・ 防災に関しては、今般の改修工事の際に、レジリエンストイレやマンホー ルトイレ、消火栓のスタンドパイプを設置し、地域の防災訓練の際に利用 していただくことも想定している。その際は、積極的に周知したい。
事務局	・ モーニング競輪は、8 時 30 分ごろからレースを開始するもので、令和 5 年 度は 12 日開催した。立川競輪は住宅街にあるため、近隣住民の迷惑や近隣

C 委員 事務局	学校の登校時間を踏まえ、10 時開場とし、それまでは無観客としている。モーニング7レース制だと午前 11 時半には終了するため、場外発売を引き続き行って観客には楽しんでいただいている。 ・ミッドナイト競輪は、立川本場ではなく、前橋競輪を借りて年に数回開催している。こちらも地元住民の理解が必要なことと照明の照度が足りないなどの設備的な理由がある。また、使用料として収益を前橋と折半しており、自場で開催する場合と比べて収益性は悪い。 ・資料によると受託場外の開催日数が令和 2 年度以降年々増えているが、こちらから積極的に営業活動をしたのか、それとも先方からお願いされるものなのか。 ・令和 2 年度の 31 開催というのは、コロナ禍のため例年より特に少なく、通常に戻るにつれ増えていった経緯がある。 ・受託場外についても立川競輪と京王閣競輪で発売日の調整をしている。顧客が重複しているため、同時に発売すると売上が分散し、収益が得られないためである。開催場としては他場にできるだけ売ってほしいという思いがあり、立川としてもできるかぎり発売しようということで増えたのが実情である。
事務局	(3) 立川競輪場施設改修基本計画について ・入場者数の減少が続くことで、施設規模が過大になっているとともに、施設設備の老朽化が進んでいること、また昭和 56 年以前の旧耐震性能の施設が多数存在し、施設および設備の抜本的な改善が必要となることから施設調査結果や、顧客の意見をもとに施設改修の計画を検討することになった。 ・立川競輪事業の将来像検討委員会の検討テーマに、持続可能な競輪事業があることを踏まえ、「市民に愛される競輪場」、「安定的な事業収益を確保できる競輪場」、「防災機能を強化した競輪場」を施設改修の 3 つをコンセプトとした。 ・当初は、全工事を平成 28 年度で完了する予定だったが、入札不調に伴い、計画の見直しを行い、1 期と 2 期に分けて行うことになった。1 期工事は平成 27、28 年度に行い、2 期工事は建設資材の高止まり、開催規模の適正化により、再度改修の見直しを行い、令和 5～7 年度に工事を行うことになった。 ・市民に愛される競輪場については、芝生観覧席などを設置した広場やイベントなどに使用できる施設を設けることを計画で示している。具体的には、1 期工事では市民の丘を造成し、2 期工事では、市民開放エリアや中間エリアを造成し、憩いの場を創出する。中間エリアは、競輪開催日以外には開放し、地域の催しとしても貸し出しを予定している。 ・安定的な事業収益を確保できる競輪場については、施設のコンパクト化、効率的な設備への更新することを計画で示している。具体的には、2 期工

E 委員 事務局 E 委員 事務局 E 委員 D 委員 事務局 B 委員 事務局	事で第2スタンドを改修し、各部門の連携と効率化を向上させるため、管理機能を集約しコンパクト化する。また、中間エリアでは、柔軟なレイアウトを設定することができ、開催規模に応じた施設利用をすることができる。設備更新については、環境や省エネを配慮した計画とする。 ・防災機能を強化した競輪場については、施設の耐震性能の確保、地域防災計画に伴う防災機能強化を計画で示している。具体的には、1期工事で、中央スタンド台にスタンドの耐震補強を行い、2期工事にて耐震性能が不明な建物を解体する。中間エリアに災害用トイレやマンホールトイレなどを設置する。 ・中間エリアの維持管理は誰が行うのか。 ・競輪場内の敷地であるため、事業課が管理することになる。 ・中間エリアの開放は、場外開催時も同様か。 ・場外開催時であれば、イベント等を行っていなければ開放できるので、状況による。 ・本施設改修基本計画は、民間企業でも地域貢献が重要になっている昨今で、競輪をやるためというのを強く感じる。そのコンセプトで外エリアの3,700平方メートルを公営競技事業部だけで管理できるのか。 ・また、地域に必要な施設と思われるためにも、競輪非開催時には、例えば、農産物の直売所などでB to BやB to Cのものが入って、普段のお客様以外の方が来なくなる魅力があると従来の競輪場のお客様の割合が薄まっていくのではないかと。地域の皆で何かをしようという巻き込みがないとただ広場があるだけで終わってしまうのではないかと。 ・自転車のまちを謳うのであれば、例えば奥多摩の商品を目当てに自転車で来る人のベースになって、荷物を置いたりシャワーを浴びたりできるようにしてそこで立川の名産を売るとかも面白い。 ・競輪場の昔のイメージと比べると、市民の丘ができただけでも随分違う。これに開放エリアができれば、管理の問題は置いて、外観的なイメージがだいぶ変わってくると思う。単に「緑ができてよかった」ではなく、地域と競輪場の接点としてどう有効活用できるかについての企画力や発信力が重要であり、連携して考えていきたい。 ・毎日競輪を開催しているわけではなく、開催中でも状況によっては、例えばフリーマーケットで活用してもらうなど使用の垣根を低くしてイメージは変えていきたい。 ・開放エリアの管理については、例えば、監視カメラを設置するなどの経費が発生するのはやむを得ないと考えている。 ・競輪場を囲んでいる外堀は撤去するのか。 ・そのとおり。市民開放エリアと中間エリアの間にはフェンスをつけ、開催時に区分けして管理する。 (4) 立川競輪の現状と課題について
--	--

事務局	資料5「令和5年度の立川競輪の決算について」を説明 ・立川競輪の課題としては、収益構造が少しいびつな形であり、普通開催では収益が上がらず、年1回の記念開催の収益だけで年間の収益を賄っている。他場では近年ミッドナイト競輪の収益が大きな割合を担っているが、立川ではそういった状況にない。 ・また、受託場外開催が赤字である。受託場外は立川での売上によって立川の取り分が決まるが、現状では人件費や清掃委託料等の固定経費を支払うと赤字となる開催が多い。令和4年度は2,000万円、令和5年度は3,600万円の赤字であった。特に令和5年度は受託場外で収益が一番大きいグランプリを立川で開催したためその分が減少したということも関係している。 ・令和6年度は4～7月だけで3,880万円の赤字となっており、下半期については窓口の縮小等経費削減を模索している。 ・受託場外の売上の損益分岐点は、GⅢグレードで1日2,000万円、FⅠ・FⅡグレードで1,400万～1,500万円である。
アドバイザー	立川が管理施行しているケイドリームスについて報告 ・会員数は100万人超。毎月1,000人程度ずつ増加している。構成比は20～30代が伸びている。 ・一方、車券購入額は40～50代が構成のメインであり、20～30代の会員を購入に結びつけるかが課題である。購入者数についても同様である。
E委員	・今回の経営戦略は、車券の売上をどうするかが幹であり、競輪場を使ってどうやって利益を出すかまたは地域に対してどう貢献するかは軸として出てこないのか。
事務局	・基本的には車券売上をどう黒字で継続していくかがメインである。それと併せて市民へのPRや非開催時の活用をどうするかを考えたい。
E委員	・20～30代は最初何回かやったが、興味がなくなってもう買わないということかと思う。現在競輪はどんどん伸びているというが、そうでもないというのが見え始めているのではないか。それを踏まえると千葉競輪の例がいいかどうかは別としても競輪以外での利益を出していかないと厳しいのではないか。
事務局	・受託場外については厳しい状況だが、競輪はまだ十分に売上をあげており、収益をあげるポテンシャルがあると考えている。例えば、キャッシュレスが増えてくれば経費削減につながるし、昼間の普通開催で収益があがらないのであれば、ミッドナイトの開催を目指す等。 ・他場では施設整備も含めて包括委託をし、その結果サイクルパークや公園が隣接設置されているところもあるが、直営の競輪場がそれでよいのかという思いがある。
F委員	・車券売上は、本場、電話・インターネット、場外のどこに力を入れていきたいのか。
事務局	・現状ではインターネットが主流となっているが、その主体である若年層は急に関心がなくなるという危惧があるので、競輪場に来場してもらいたい

B 委員 G 委員	と考えている。施設改修も継続して行い、「競輪場はきれいでよかったね」と継続して来場してもらえるようにしたい。 ・大きな開催頼みとなっている収益構造は、業界全体の構造なのか。 ・記念競輪で年間の収益を稼ぐというのは、売上が低迷していた時代に顕著で、今はF I の普通開催も赤字にならなくなりつつあり、健全化しつつある。 ・一方、受託場外については各場で特色があり、人件費が高い地域とか施設の構造上売り場を広げないといけないとかで収益構造が若干違う。ただ、過去に比べると健全化しつつある。
B 委員	・場外開催を増やしていくというのが従前の計画であったが、インターネット投票が主流になっているのならば、場外開催は減らしてもいいのではという感覚もある一方で、来場者増のためには赤字覚悟で場外開催にも力をいれていくのも一つの戦略としてあるかもしれない。
事務局	・立川が場外発売してくれるから他場も場外発売をしてくれるというお互い様の部分があり、単純に場外開催を減らしていくのは、全体が縮小することになって非常に難しい。それよりもいかに経費を削減していくかを優先するべきかと考える。
C 委員	・地域住民に支持されるということも含めて楽しんでもらえる施設を作って来場者が増え、結果として売上もあがるのが理想。いかに人を呼び込むかという視点の方がよいのではないか。
事務局 A 委員 B 委員	(5) アンケート結果について 資料 6-1 「民間ポータルサイト会員のアンケート結果」について説明 資料 6-2 「立川競輪経営戦略委員会参考資料」について説明 ・資料 6-2 について、少し残念なのは「きれいな」や「家族向け」という項目が低い。今度の改修で開放エリアができてノーフェンスになれば、ぐっと上がることを期待したい。
A 委員	・アンケートでは7割近くが競輪場に来たことがないとなっているので、きれいにしただけではおそらく変わらない。
B 委員	・市民の方も実際に来ていないから、閉鎖的で怖いといったイメージになる。中が見えるようになれば印象がだいぶ変わることを期待したい。
事務局	4 今後の委員会の進め方について ・第2回は、令和6年9月30日(月) 午前10時から。第1回での意見を踏まえて事務局が経営戦略の骨子案を作成し、それを基に議論する。 ・第3回は、令和6年10月21日(月) 午後3時から。それまでの議論もとに事務局が経営戦略の素案の案を作成し、それを基に議論する。